



洗濯機用水栓

壁付タイプ

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

このたびは、洗濯機用水栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

安全上のご注意

施工前・使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

注意 気をつけていただきたい「注意」を表します。

強制 必ず実行していただく「強制」を表します。

施工上のご注意

- 施工前に使用する壁板厚をご確認ください。
- 壁空間は40mm以上確保してください。
- 水栓に接続する配管や継手の経路がボードや下地材などに接触しないことを確認してください。接触する場合は偏芯ソケットを使用したり、下地材の逃げ加工を施してください。
- 取付後の各部の耐圧検査、漏水検査は必ずバルブを閉じ、自動閉止機構を解除した状態で行ってください。

使用上のご注意

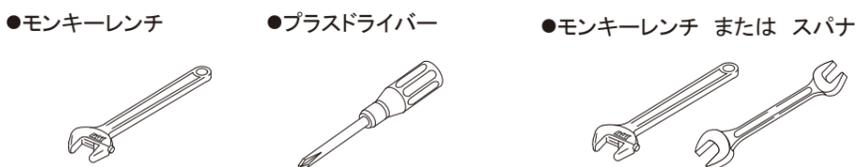
- 洗濯機用給水ホースは必ず日本電気工業会(JEM1206)の規格製品をお使いください。
- 洗濯機用給水ホースを接続する際は正しく吐水口に直接挿入してください。強引な挿入や他の部材を使用した接続は吐水口が破損し漏水の原因となります。
- 洗濯機用給水ホースを接続する際は必ず水栓のハンドルを閉じ、吐水口内の圧力を抜いてから接続してください。
- 器具を使用しないときはハンドルを閉じてください。

製品同梱明細

品名	洗濯機用水栓 (逆止つき)	洗濯機用水栓 (逆止なし)	エルボ	カバープレート	固定プレート
731-010	○	—	○	○	○
731-011	—	○	○	○	○
731-015	○	—	○	○	○
731-015K	—	○	○	○	○

* 上記部材に加えて、
 ● タッピングビス(φ4X20) 4コ ● タッピングビス(φ4X25) 2コ ● シールテープ ● 下げ札
 ● 取扱施工説明書 ● 保証書

施工に必要な工具



使用方法

● 自動閉止機構について

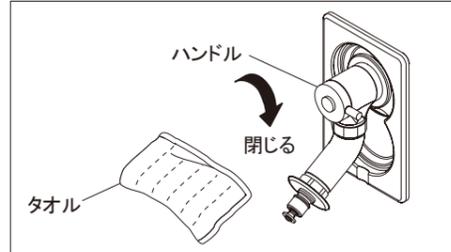
万が一通水中に洗濯機用給水ホースが外れた場合には、吐水口に内蔵された自動閉止機構が作動し、水が漏れない構造になっています。再度、洗濯機用給水ホースを接続する場合は「● 自動閉止機構の解除方法」に従って解除を行ってください。また、洗濯機用給水ホースを接続せずに水栓のハンドルを開けた場合にも同様の作業を行ってください。

使用方法(つづき)

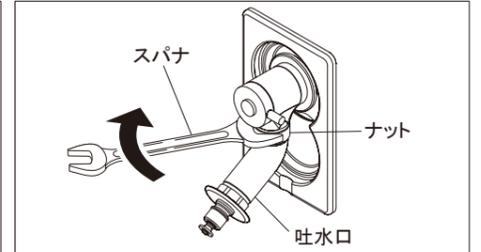
自動閉止機構の水栓器具のため洗濯機用給水ホースを接続しないと通水されません。洗濯機用給水ホースを取付後、通水してご使用ください。

● 自動閉止機構の解除方法

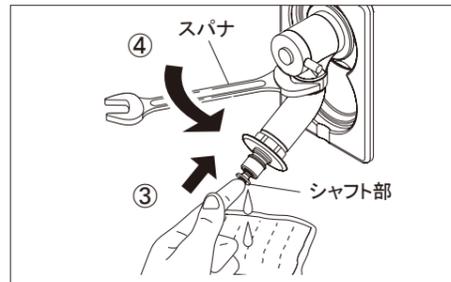
* 吐水口に溜まった水がこぼれますのでタオルなどを用意して作業してください。



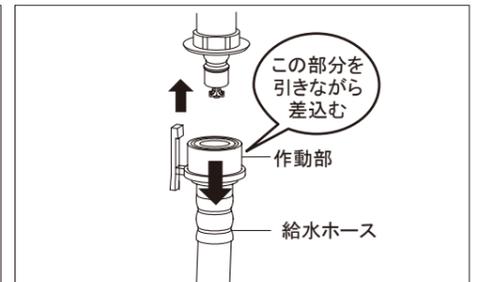
① 水栓のハンドルを右に回して閉じます。



② 工具(スパナまたはモンキーレンチ)で吐水口のナットを軽く緩め圧力を逃がします。

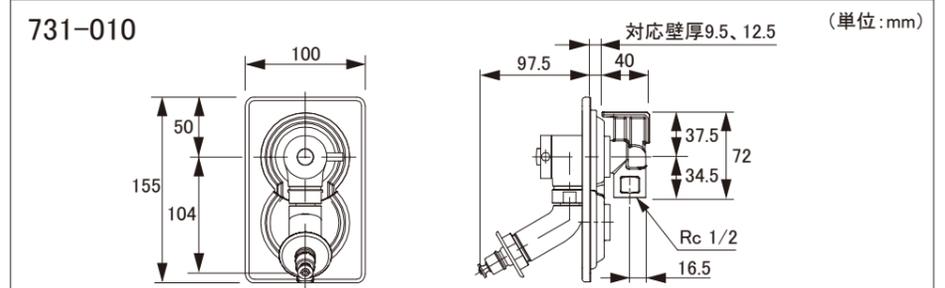


③ シャフト部を押して水を抜きます。
④②で緩めたナットを工具でしっかり締めます。



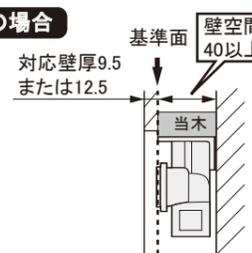
⑤ 洗濯機用給水ホースを取付けます。
* 洗濯機用給水ホースの作動部を引きながら「カチッ」と音がするまで差込んでください。

取付条件

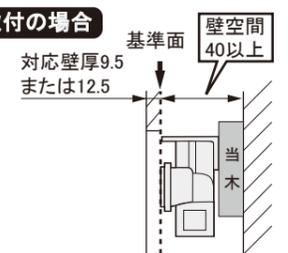


<取付条件>(各品番共通)

上面取付の場合



背面取付の場合



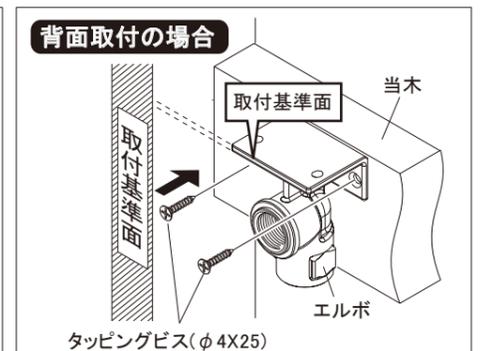
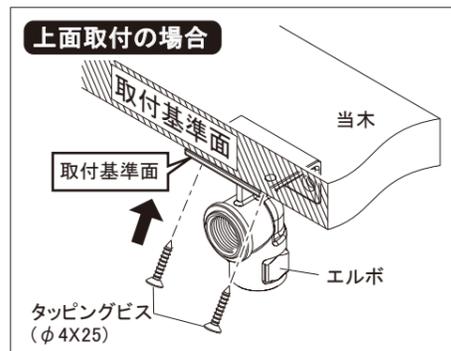
取付けの前に

* 数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を閉めて取付作業を行ってください。

取付方法

1. エルボを取付けます。

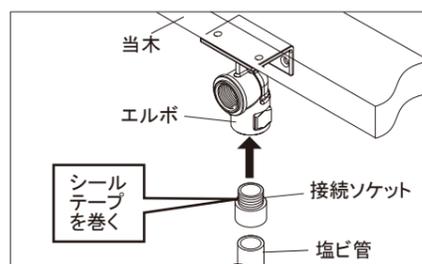
* エルボは、上側、背面側で取付けが出来ます。施工状況により固定面を決めてください。



水栓の取付位置にあわせて当木を設け、エルボを付属のタッピングビス(φ4X25)で固定します。

- さや管工法の場合は、仮固定にしてください。
- エルボの取付基準面に当木面を揃えてください。
- 固定の際にズレが生じる可能性があります。施工後は確認及び調整を行い垂直に取付けてください。

2. 配管を接続します。

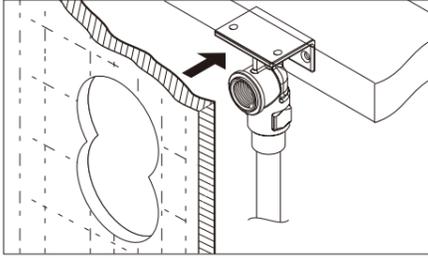


配管を接続します。
* 配管を取付ける際は、必ずシールテープなどを使用して、水もれしないように施工してください。
* さや管工法の場合は「3. 壁を仕上げます。」に進んでください。

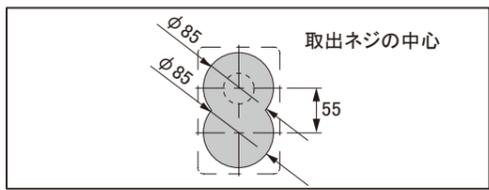
裏面へ続く➡

取付方法(つづき)

3. 壁を仕上げます。

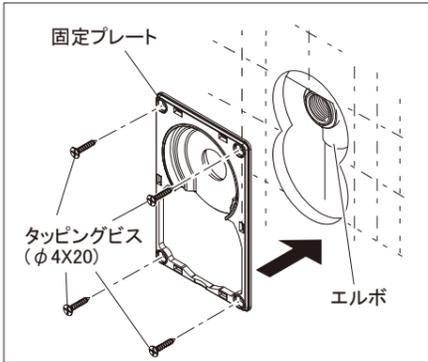


①壁ボードに指定寸法の穴をあけます。

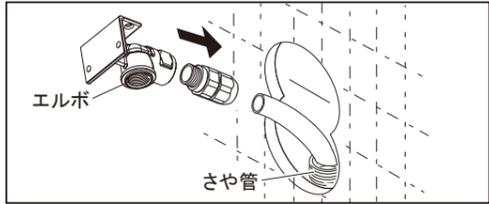


②壁を仕上げます。

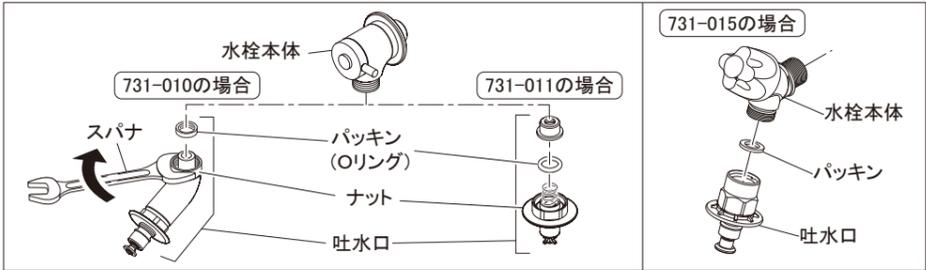
4. 固定プレートを取付けます。



エルボの取出ネジに固定プレートの中心をあわせ付属のタッピングビス(φ4X20)で固定します。
*さや管工法の場合は、エルボを外し配管を接続しエルボを固定してから固定プレートを取付けてください。

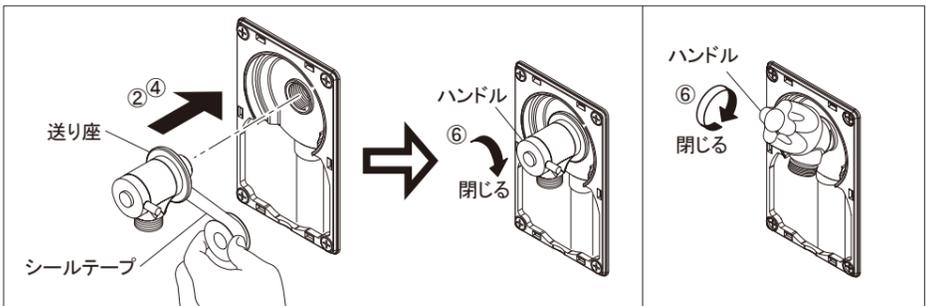


5. 水栓を取付けます。



①水栓本体より工具(スパナまたはモンキーレンチ)でナットを緩め吐水口を取外します。

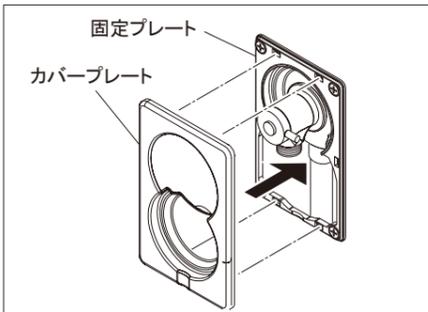
! 吐水口のパーツを紛失しないよう気をつけてください。



②水栓本体をそのまま壁に取付けて正面から見て、傾きがなく壁面にあたるときの回転数を確認します。
③水栓の取付ネジ部にシールテープを軽く引張りながら時計まわりに全体に均一になるように7~8回巻付けます。
④水栓を右方向(時計まわり)にまわして②で確認した回転数を参考に、正面からみてまっすぐの位置で止めます。
* ハンドルを持って締付けしないでください。
⑤送り座を壁面に密着するまで回転させます。
* 731-015の場合は送り座はありません。
⑥水栓のハンドルを閉じた状態で元栓を開け、取付部分から水もれがないか確認をします。
* 水もれする場合は、元栓を開けて施工しなおしてください。

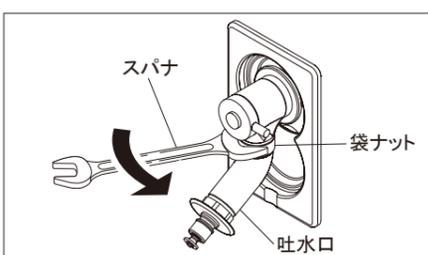
! 取付け時に逆方向にゆるめないでください。漏水の原因となります。逆方向にゆるめた場合は施工しなおしてください。

6. カバープレートを取付けます。



固定プレートに、カバープレートを「カチッ」と音がするまで押付けます。

7. 吐水口を水栓本体に取付けます。



①で外した吐水口を水栓本体に取付け、工具でしっかり締付けます。
* 吐水口内部のパーツが外れた場合は、「分解図」を参考に取付けてください。

! パッキンが付いていないと漏水します。入忘れにご注意ください。

お手入れのしかた

●器具のお手入れ

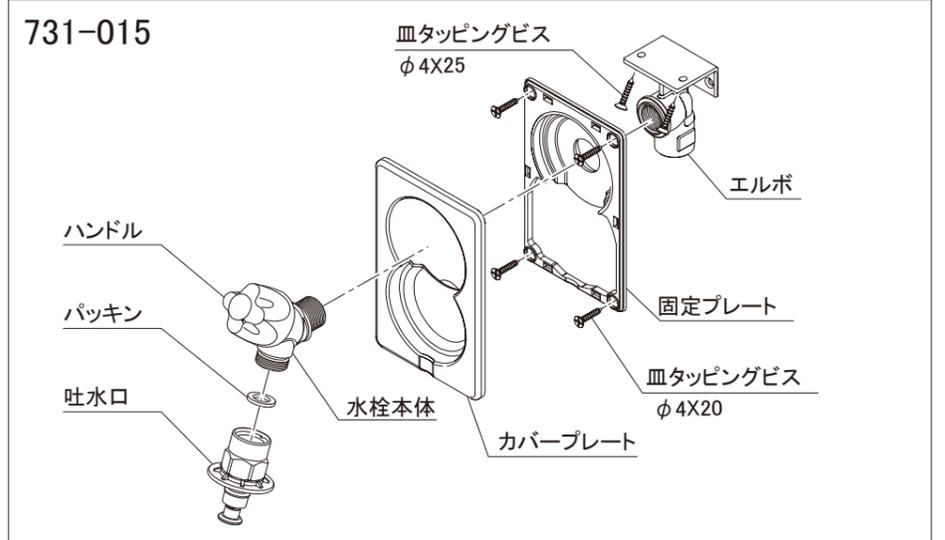
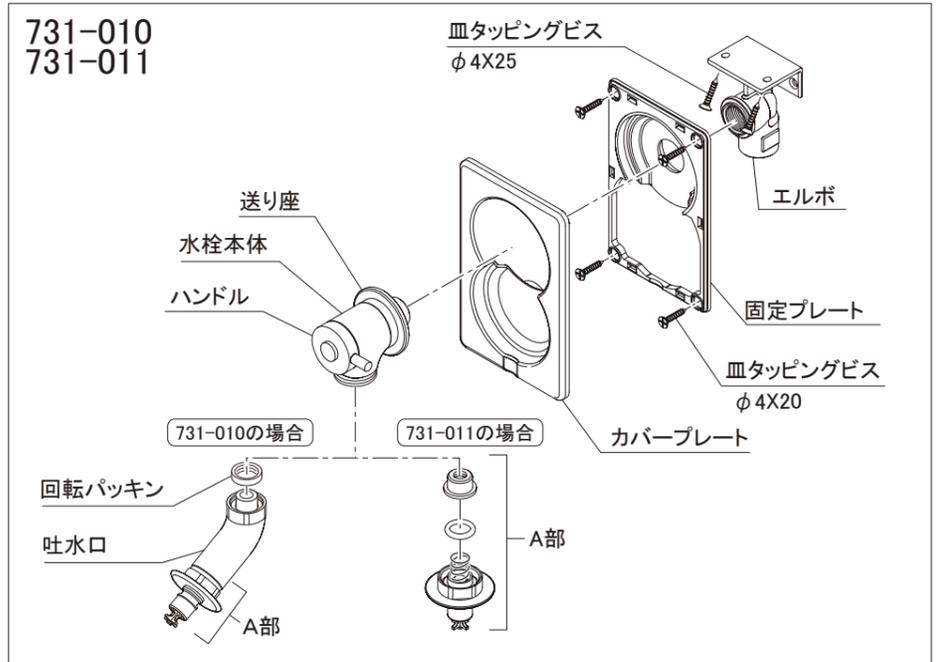


いつまでも美しくご使用いただくために。

- 水栓器具の金属部は…
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいでください。
- 水栓器具のプラスチック部・塗装面は…
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭取ってください。

! 金属たわしやクレンザー・磨き粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

分解図



* 品番によっては、図と製品の形状が一部異なります。
* 製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、分解図を参考に次の要領で点検を行ってください。

現象	原因	対処のしかた
水が出ない	●ハンドルが吐水状態(開)になっていない ●元栓が開いていない	●ホースを取付けてから吐水状態にする ●元栓を開く
水が止まらない	●ハンドルが止水状態(閉)になっていない	●ハンドルを止水状態(閉)にする
流量が少ない	●元栓が十分に開いていない	●元栓を開き流量を調整する
ホースが取付かない	●自動閉止機構が作動している ●ホースが規格に適合していない	●「自動閉止機構の解除方法」を参照して解除してからホースを取付ける ●日本電気工業規格(JEM1206)に適合した洗濯機用給水ホースをお求めください
吐水口の接続部分から水が漏れる	●吐水口が正しく取付けられていない ●パッキンの摩耗	●パッキンが入っているか確認し、吐水口のナットを締直す ●パッキンを交換する
ホースとの接続部分から水が漏れる	●ホースが正しく取付けられていない	●「自動閉止機構の解除方法」を参照してホースを取付ける

以上の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買上げの販売店(工事店)にお問合せください。

壁裏配管の接続部を点検する時には…

水栓本体より吐水口を外し、下部の切欠からマイナスドライバーなどでカバープレートを持上げ外して点検をしてください。

取付後の確認

洗濯機用給水ホースを取付けてからハンドルを開き各部に水もれがないか確認します。水もれする場合は、その箇所の施工をしなおしてください。